

小沢映子後援会だより

⑤

四つ葉のクローバー

地域福祉を拓く

地域福祉が本格的な展開の

時代に入ろうとしています。

なんとといっても2000年4月、導「委任」「監督」という概念を根本的に転換する大きな改革でした。これまでは、「機関委任事務制度（知事や市町村長を国の地方出先機関とみなして国の事務を行わせる制度）」で国が指揮監督権を持つことで、国から県、県から市町村と上下・主従の関係でした。ところがこの「機関委任事務制度」を廃止することで、国県市町村は「対等・協力」「対等・平等」の関係になったのです。国から県、県から市町村との関係の中で「指

導」「委任」「監督」という概念自体が廃止され「相談する」「協力する」という関係が基本になりました。これはすごいことだと思います。とりわけ国の関与が広範囲に強かった福祉行政分野にとって大きな意義を持っていると思います。自治体は、熱意と能力を問われ、地域で差がつく時代になってきました。

地方分権改革によって、社会福祉にかかわる業務が市町村の機能として明確に位置づけられているのです。そして変革は進んでいきます。まず地方分権の試金石といわれる介護保険がスタートして、地域の中で様々な変化が現れています。NPO法の実施により、その活動が市民権を獲得し始めています。2000年6月に社会福祉法が施行され2003年度の地域福祉計画の策定も定められました。私が、議員になろうと決心した理

由の一つは、この福祉の基礎構造改革の変革期に、いままでの縦割り行政、指示待ち行政の弊害を克服して、知恵とやる気で地域に根ざした本物の福祉ができるかもしれない、私のやるべき役割があるかもしれないと考えたことです。

一人暮らしの後期高齢者がますます多くなるが、火の心配や、倒れたとき、近隣からすれば施設や病院に入ってもらったほうが安心だが、本人は自宅で過ごしたい。このような課題をはじめ、高齢者、障害者、子育て中の若い母親が抱える問題が放置されたり、手付かずでいたりします。

富士市では平成十六・十七年度の二カ年で地域福祉計画を策定しなければなりません。地域福祉計画をいかに作るかという点で、その内容もさることながら、策定の過程が場合によっては、計画内容以上に重要な意味を持てきます。住民参加を欠いた計画は法定計画に該当しないとさえ言われます。私たち生活者が地域福祉計画に関わって、本当に、個性豊かな地域社会を作っていくチャンスだと思っています。





緊急地域雇用創出特別対策 事業の成果と今後の取り組み

障害者トイレ、緊急通報、福祉マップ等バリアフリー

失業者の就労対策事業として、国は平成十一年から十六年度43

ます。施設のバリアフリーについて質問しました。

00億円を投じて緊急雇用交付金事業を実施しました。富士市で交付された金額は、六年間で約4億2000万円420名ほどの緊急雇用実績になります。中でも特に効果があつたと思われるのは、小

まずは、市内の公園にできたバリアフリートイレの問題です。鍵が閉まっています、車椅子の方が仕方なく和式便座にべたっと座り込んでやっと用を足しました。本人も介助者も大変だったことは言うまでもありません。公園のトイレについては、地域の方が掃除をする

低学年の多人学級や援助が必要なクラスに教員を補助する目的でつきました。国から全額の交付金でまかなわれるこの制度が十六年度

五時に鍵をかけることになっていく。トイレもあるようです。市側の回答は中に入っていたはずとされな

で終了します。教育現場では、市単独でも支援員事業を継続して欲しいとの熱烈な要望があります。

最近では高齢者も妊婦も子供づれの人も誰でも使えるバリアフリーになっていきます。

十七年度の継続を強く求めました。今後は予算要求がどれだけ通るかにかかっています。

また、市内の公園にできたバリアフリートイレの問題です。鍵が閉まっています、車椅子の方が仕方なく和式便座にべたっと座り込んでやっと用を足しました。本人も介助者も大変だったことは言うまでもありません。公園のトイレについては、地域の方が掃除をする

ノーマライゼーションという言葉の普及と共に、県でも福祉の街づくり条例（ハートビル法）が作られ、障害を持っていても、地域で当たり前に行われる仕組みが整いつつあります。しかしまだ当事者の立場に立ったハード整備、ソフト整備の充実が不十分だと思われる



通常のトイレと別に個室化されているから、人目につかず、いたずらに使われてしまうのです。車椅子の方たちは、通常のトイレの一つが広くなっていて車椅子でも使えるようになれば、いたずらされにくいばかりでなく、何かあつたときにも中から人を呼びやすいとい

に、当事者団体のほうが、常に新しい情報を持っている。他市もそうですが、例えば委託ということでは考えられないのでしょうか。職掌障害者は市内に500人近く住んでいます。職掌障害者は、携帯電話が主たる通信方法ですが、ファックスの使えない、自宅外での緊急通報には、県警の「メール110番」があります。富士警察署に手帳等証明できるものを持って、メールアドレスをもらいます。しかしメールは県の通報センターに行くのでそこから各地区の警察署へ転送して、救急の場合は消防所へまた転送になります。

弱視の方はトイレの電灯の位置によって手元が見えませんが、トイレの個室の上に照明があれば手元まで明るくなりますが、トイレの真ん中つまり通路だけに照明（意外と多い）となると、手元に光が届きません。

福祉マップ作成について、市町村によつては、きめ細かな情報を載せた福祉マップを作っているところが増えてきました。市のホームページから見る事ができます。ハンディのある人は、トイレがないと外に出られません。エレベーターはあるか、駐車場は、点字ブ

ック・音声ガイドはあるか、手が話ができる人がいるか、設置位置やさらに詳しい情報がわかるマップができています。富士市の福祉マップは、公共のバリアフリーの情報は、公共のバリアフリーの情報は、日々新しくなる施設

しました特別支援教育に関係して一般質問や教育委員会と話し合いを重ね、重複の障害のあるお子さんが支援員がつくことで通常学級への入学が叶いました。お母さんに、半年あまりの学校生活について語っていただきました。

後援会だより三・四号でお伝えした特別支援教育に関係して一般質問や教育委員会と話し合いを重ね、重複の障害のあるお子さんが支援員がつくことで通常学級への入学が叶いました。お母さんに、半年あまりの学校生活について語っていただきました。



一四七二で生まれたわが娘は、何回かの学校教育相談課との就学視覚、股体、精神遅滞をもつ重複障害児です。今年小学校一年生になり、早いもので半年が過ぎました。昨年の就学検診が始まったのもこの時期だったと思います。盲学校又は養護学校と口には出していましたが、心の奥底には地域の小学校の経験もさせてあげたいという希望がありました。しかし、娘のためには盲学校・養護学校の方が良いのではと気持ち複雑でした。この大事なことを親が決めなくてはならないという問題に眠れないほど悩み、苦しい日々が続きました。娘の少しずつの成長を感じるとともに、大勢の同年代の子供のふれあいほしいと大きく心が揺れ動き、まず第一歩として地域の小学校の健康診断に行こうと思いました。

そこからの就学相談は言葉に表せないほどきついものがありました。何回かの学校教育相談課との就学相談を経て、今年四月二日に入学式の相談に行った時にやっと娘が入学の許可をもらったと分かり、涙があふれ出ました。また、何もできない娘を学校にあずける不安がよぎりましたが、特別支援教育支援員を配置して頂けるといこととで安心しました。

入学の第一歩、入学式。大勢の人が苦手な娘を思うと不安は大きかったのですが、名前が呼ばれ大きな声で「ハイ」と返事をしたときには感激でいっぱいになりました。入学してから、学校側のご理解、担任の先生、主任先生、支援員の方々の指導のもと、娘が楽しく学校生活を送れるようにと養護学校、盲学校との連携をとって頂きました。特別教育支援員さん

他の子供たちと一緒に出来ることは一緒に、出来ないことは他の内容を考え授業を進めて頂いていきます。学校全体で行う大きな行事、運動会も話し合いを重ね一年生四種目中三種目は子供たちの中に入って参加できました。思い出深い運動会となりました。クラスの子供たちも、色々な声をかけてくれたり、面倒を見てくれたり、多くの子供たちから刺激をもらい、今ま



嘉興市友好交流 訪問団に参加して

できなかつたことも、なかなかやる気が出なかつた事も学校ではしつかりやり、又家でも少しずつやる気が出てきています。今後娘がもっともつとより良い学校生活が送れるよう支援員から介助員への移行、また一人一人その子なりの教育を受けることができるかと良いと強く願います。今のところ大

惟村 伴江

市議一期末の議員が中国浙江省にある嘉興市に友好交流訪問団として、訪れます。自費ではなく税金を使って行くということで、批判もありますが、七月二十六日から三十一日の日程で議員8人事務局2人が訪問して来ました。私にとって初めての中国でした。まず、最悪度の障害を持つ娘と六日も離れることも、以前では考えられないことでした。ヘルパーさんのおかげで、ショートステイに預けることもなく、私がいなくても娘はいつもと通りの生活ができるので、安心して行ってくる事ができました。(準備は大変でしたが)中国を訪問した人が異口同音に驚

くのがその経済発展の目覚しさです。豊富な労働力、企業誘致のために整った経済開発区、インフラ整備も半端ではありません。まず上海の空港から嘉興市までたった広い高速道路を、一時間半ほどでホテルへ。途中二〇階建て以上の超高層住宅ビル群が何ユニットも通り過ぎてゆきました。富士市は人口二十四万人ですという、一つの高層団地と同じくらいということでした。市役所も博物館も体育館も学校もすべて新しく建てたばかりでした。街のあちこちから建設ラッシュです。自転車はバイクに代わり上海では車の渋滞がひどく、車を持つために



取るナンバプレートが日本円で四十万以上もするとのこと。今回の視察では、社会主義の国での社会保障はどうなっているのだろうか、課題を持っていきました。養老保険、社会保険、リストラ、医療保険、仕事の事故・女性の育児保険、貧しい人のための再就職サポート事業等々、近年整ってきたようです。十三年後は高齢化都市になると予想されています。いかなる町や村にも高齢者委員会を作って高齢者問題研究や生きがい対策をしています。



ご意見・ご要望は
こちらまで

小澤映子後援会事務所

〒417-0001 富士市今泉5-6-45
TEL・FAX 0545-52-5299
メール eiko@tx.thn.ne.jp
URL <http://web.thn.jp/ozawa/>



障害者については、就職できるようにハード面の整備や、企業に就労を義務付けたり、職業訓練をしたりと力を入れていきます。高齢者については一〇〇人以上収容できる施設を建設し二年后には現在の68%から100%に整備するという具合に箱物は、どんどん建設されていきます。以前の日本のように、在宅施設が、また重度障害者についてはほとんど施設がないかと思われま

活 動 報 告

6月1~4日	<視察>北海道 函館市・伊達市 室蘭市・苫小牧市	特に楽しみにしていた伊達市では障害者の社会参加とノーマライゼーションのすばらしい実践を肌で感じて感動!
6月11日	静岡県庁	障害者支援館室長、支援費担当課長との話し合い
6月17~30日	富士市議会本会議	
7月6日	富士養護学校進路対策講演会	娘の母校で父兄に、でらーとを主とした重度障害者の卒業後について講演しました
7月9日	三島市リベロ見学	主に不登校や引きこもりのフリースクールへ行って、お話を伺ってきました
7月18日	フォーラム「家族に学ぶ」参加	小児科学会のグループフォーラムがでらーとを会場に開催されました
7月22日	議会研修会 グランシップ	静岡県の市会議員を対象とした研修会です。長泉町にできた県立がんセンターの院長にお話を伺いました
7月26~31日	中国嘉興市訪問	富士市と友好都市を結んでいる浙江省嘉興市に行って来ました
8月8日	<視察>熱海市	市で買い取り、一般公開している「起雲閣」の歴史的な重みに保存が開発が熱海市の決断を学んだ
8月21~22日	はなみずき一泊研修	障害者の家族とボランティア・関係者が会して我が子の自立について貴重な研修ができました
9月2日	議員研修会 静岡市	三位一体改革における地方財政の今後について
9月13日~10月14日	富士市議会本会議	
10月10日	スペシャルオリンピックスポートラン	富士市総合運動場にて、開会式のなかでトーチランをしました
10月15日	シンポジウム 地域連携事業	静岡県のシンポジウムが富士市ロゼシアターを会場に開かれました
10月17日	市民福祉祭り参加	父親は焼きそばを焼き、母は売り子をしました
10月22日	<視察>愛知県高浜市	地域福祉のすばらしい実践にただただ驚くばかりです。富士市でも是非
10月23日	映画「雨の時間」上映	観に来てくださった方ありがとうございます
10月28~30日	<視察>岩見沢市・JR部橋工場 小樽市・北広島市	IT関連の事業市としての取り組みのすごさに驚きました(岩見沢市) 新交通システムとして道路と鉄道を走れるバス?電車の開発に胸ときめきました(JR部橋工場) 街の顔となる駅前開発、富士市もこんなのだったら...(北広島駅周辺)

この他に所属の委員会や特別委員会、全員協議会、会派会議、集談会等、定例または不定例にあります。 別冊紙、報告会、その他行事参加、または所属団体の定例活動は掲載を省きます。